



ゴールデンウィークも終わりました。いかがお過ごしでしたでしょうか。登園してきた子ども達は、笑顔で友達と触れ合ったり、休み中の話をしたりして、「さあ、また幼稚園で遊ぶぞ」という気持ちを感じられました。ただ、休み中は急に夏のように暑くなったり、いつもと生活のペースが違ったりして、なんとなく体調が整わないなと感じられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。疲れた時は休息をとったり、生活習慣を整えたりして、元気で過ごせるようにしましょう。

園外活動、楽しいね！

時折暑い日もありますが、さわやかな風が吹き、戸外が気持ちの良い季節となりました。園外保育や遠足など、子ども達にとって楽しい活動が多い5月です。

1日(水)は、平田船川の上にたくさんのこいのぼりが泳いでいるのを、年中・年長児が見学に出かけました。『平田船川こいのぼり群泳実施協議会』の村田さんに毎年お願いし、今年もこいのぼりの話を聞かせていただきました。「子ども達の健やかな成長を願って寄贈されたこいのぼりであること」「船の上でロープにこいのぼりを括り付けて川の上を泳がせていること」などを、わかりやすく教えてくださいました。「川の上なのにどうやってこいのぼりをつけたんだろう？」と疑問を持っていた子ども達は、その話を聞いて、「あっ、本当だ、船があった」と納得したようです。この日は風が強く、こいのぼりがとても気持ちよさそうに泳いでいるのを見て、「やねよりたかい、こいのぼり〜♪」と歌いながら眺めていた子ども達でした。

7日(火)、天気が心配でしたが、浜山公園への遠足を行いました。年中・年長児はバスに乗って、今年度は年少親子も同じ浜山公園へ現地集合しました。最初に公園で楽しく遊ぶための約束をして、早速クラスごとに遊び始めました。年少児はまず、おうちの人に向かってかけっこをしてから、広場近くの遊具で遊びました。『タコ滑り台』に挑戦する子もいましたよ。年中児は『タコ滑り台』に大喜び！滑りそうになるところを何とか登り切って、いろいろな方向の滑り台を滑っては大笑いでした。繰り返し遊ぶので、もしや『タコ滑り台』で半日が終わるのでは・・・と思ったくらい楽しみました。その後、少し奥へ行った高いローラー滑り台でも遊びました。年長児は、まず高いローラー滑り台で繰り返し遊んだ後、年長児ならではの遊び場所・・・一番奥のアスレチックへ行きました。網を登っていかないとてっぺんまではいけないので大変です。(階段もあるのですが、それを使う子はほとんどいませんでした。やはり挑戦！ですね)慎重に一步一步登る子、慣れて来るとスピードをあげて登る子・・・と、自分のペースでアスレチックを楽しんでいましたよ。思う存分遊んだ後は、美味しいお弁当タイム。年長児が年中児を誘っていろいろな友達と顔を見合わせて、年少児はおうちの人や友達と一緒に、笑顔いっぱい美味しいお弁当やおやつを食べました。帰る時間になってもまだまだ遊びたかったようで、「遊具さーん、また来るねー」と手を振っていた子もいました。たくさん遊んで、楽しい遠足となったようです。



「あれ？ぶつかっ
ちゃうね」
(年少児)



「よいしょ！滑らない
ようにね」
(年中児)



「高いねー！」
「がんばって！！」
(年長児)

「こいのぼり、気持ちよさそうだね」

裏面へ

幼児期の砂遊びは、なぜ大切？

子どもは砂遊びが大好きです。幼稚園の砂場はもちろん、ご家庭でも、公園に出かけた時の砂場や庭先のちょっとした砂でも、子ども達は飽きることなく砂遊びをしている姿を見られた経験があるのではないでしょうか。では、なぜ砂遊びはそんなに魅力的なのでしょう。

連休前の2日（木）はとても良い天気で、どのクラスも砂遊びを楽しみました。年少・年中児は年少組テラス前の砂場で、年長児は中庭の砂場で遊びました。

年少・年中児が合同で遊ぶ砂場では、砂や水に触れるだけで「キャー！」と歓声が上がります。砂のさらさらした感触、水を流してベチャベチャの感触を手や足など肌で感じています。特に年少児は、その感触を十分に味わっていたようです。そして、担任がバケツに汲んできた水を「ジャバー！！」と言って流すと、大喜びで真似をして「ジャバー！！」と言います。語彙も増え、大きな声で気分が開放されている様子が伺えました。年中児は、スコップで山を作ったり、川を掘ったりし、思い思いに自分の作りたいものを作っていきます。その姿を見て「おもしろそうだな」と思ったら、自然に仲間入りして山や川を作り、友達と一緒に遊び始めました。砂場では「〇〇ちゃんの遊び場」というものはなく、誰でも自然と仲間入りできる空間です。そして、互いに掘っていた川が水を流すことによって偶然つながると「やったー！」と大喜び。偶然の面白さがあります。また、トンネルを掘ろうと一生懸命山に手を突っ込んで砂を掘っていた一人の年中児がいました。途中で崩れてしまいましたが、また違った山を作って挑戦しました。砂は崩れるものですが、何度でもやり直せるし、違うものにも形を変えるし、どんどんイメージは広がっていきます。

年長児が遊ぶ砂場では、初めから「川を作ろう」と友達とイメージを共有して遊ぶ姿が見られました。しかし、「川」という同じイメージはもっていますがその関わり方は一人一人異なり、深く掘る子、長くしようとする子、水を汲んでは流す子・・・同じ川に関わりながらも、自分の遊び方で楽しんでいました。友達の川とつながりそうな時には、その場所を掘るとつながるということを知っていて、スコップで掘って川がつながったことを大喜びします。これまでの経験を活かして遊ぶ面白さがありました。また、自分の川作りに夢中になって、後ろにいる違うグループの川が少し壊れてしまいました。少し言い合いのトラブルはありましたが、友達の遊びも大事にしなくてはいけないということも学んでいます。

これだけ、楽しい要素が砂遊びにはあります。各学年の発達によって遊び方や「おもしろさ」の要素は異なりますが、子ども達が泥んこになって夢中になるのもわかりますね。幼児期に、砂場で泥んこになって気分を開放して遊べるというのは、とても大切で素晴らしいことです。こうした経験を十分にした子ども達は、満足感をもって、次の遊びや課題に向かっていきます。実際、年少・年中児には「作っては壊れ、また作り直す」楽しさですが、年長児になると、次第に遊び場を取っておきたくなります。そして工夫や試行錯誤を重ね、今日から明日へと遊びが継続していくので、砂遊びとは違う遊びへと移行していきます。

誰にも気兼ねなく砂遊び、泥んこ遊びを楽しめるのは、この幼児期ならではのです。お洗濯などお手数をおかけしますが、「たくさん遊んだね」と声をかけてもらえれば、子ども達はまた一歩成長へと歩みを進めていくことと思います。



最初はそれぞれだった遊びが、次第に長い川作りに・・・
(年長児)



「ベチャベチャ、気持ちいいね！」
(年少児)

「山を掘ったら、トンネルがつながるかも」
(年中児)

